

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

弊社理事 石井正文(元駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第73回: インドの総選挙の結果; 予想外のモディの敗北の背景 2024年6月13日配信

- 4月から5月に数週間をかけて投票が行われ、6月6日に開票された今回のインド総選挙の結果は、
モディ首相所属のBJP(インド人民党)大勝という事前予測とは大きく異なった。

(下院総議席数=543議席=過半数274議席)

	BJP	与党連合	कांग्रेस	野党連合
選挙前	302	320	52	108
選挙後	240(▼62)	293(▼27)	99(+47)	229(+121)

- 与党連合では何とか293議席で、過半数の272議席を上回り、モディの続投となったが、野党連合が
229議席を確保し、選挙前に比べれば倍増を超える。

モディ首相は、今後は連立政権を組みその維持に一層の力を注ぐ必要がある。

なぜこのような結果になったのか。

- インドは年8%を超える経済成長を続け、来年2025年には日本のGDPを抜き世界第3位になる見込み
であり、将来は米中と共に3大超大国の一角を形成するだろう。

- ・一方、国も人口も大きいので、「格差」という面では、未だに突っ込みどころ満載だ。
- ・イアン・ブレマーによれば、インドのある地元の業界リーダーが彼に話したところでは、「インドの人口は15億人だが、生活水準では、うち5000万人が欧州人、5億人がインドネシア人、9億人がサハラ以南のアフリカ人だ。」
- ・貧困率;(1日1.9ドル以下の生活者比率)は13.4%(2015)から5%(2022)に減少したとはいえ、未だに絶対数で7000万人を超える。
- ・5歳未満の子供の約4割が低体重で栄養上の問題があり、
- ・2億人が電気の無い生活を、
- ・6億人がトイレの無い生活をしており、これは、世界全体のトイレが無い10億人の半分以上だ。
- ・SDGsの国別ランキングではインドは193か国中112位(2022)(日本は21位、中国でも63位)。
- ・道路網の半数近くが未舗装で、農地の2/3が灌漑を雨水に頼っている。
- ・世界で安全な水へのアクセスがない約8.4億人のうち、インド人は1.6億人(19.3%)(2015)。
- ・世界で最も大気汚染されている100都市のうち、63都市がインド(2021)だ。

- 当然多数の選挙民の関心は、足元の経済不安の改善であり、現政権に対する批判は常に強い。
 - ・だからこそ、これを覆い隠すべくナショナリスティックなアジェンダや宗教アジェンダを繰り出す傾向にある。
 - ・ただ、今回の選挙時点では、インド国民の誇りを高めたG20やアヨージャ寺院建設といった象徴的アジェンダの効果は既に薄れていた。
 - ・野党 कांग्रेस は、ポピュリズムに走り過ぎ（穀物配給の拡大と雇用と教育の一部にカーストに基づく割当制度を導入すること、更に政府雇用の拡大を約束）、これに対する有権者の懐疑主義の結果、モディは何とか引き続き権力の座に座ることになった。
 - ・とはいえ、 कांग्रेस は、格差や若年失業者といった足下のアジェンダに相当特化したことが功を奏した。

- また、これまで BJP（インド人民党）は、野党から造反を誘ってどんどん切り崩し、党全体を大きくしていくという戦略をとり、造反の餌として「BJP公認候補」にするという対応を取ってきた。
 - ・これに対して、どの国でも同様だが、暦年の仇敵をなぜ応援しなければならないのかという地元 BJP ワーカーからの反発が生じ、投票動員力に陰りが生じたとの足元での影響もあったようだ。
 - ・巨大選挙であるだけに、地元の支援者の力がどうしても必要で、動員力の有無が結果を左右するということなのだろう。

- ただ、やはり、背景には、インド国民の「バランス感覚」、換言すれば、伝統的な「現職への厳しい対応」というのがあるようだ。
 - ・これは、インドにおける民主主義の「修正力」を示すものであり、ポジティブに捉えるべきではないか。

- ただ、心配なのは、モディ3期政権は、連立各党との調整に今まで以上に時間を割かれ、確実に国内アジェンダを重視した現在よりは内向きな政権になるだろう。
 - ・これは、日本にとっても世界にとっても良いニュースではない。
 - ・ただ、今回の結果を招いた国内格差への対応をモディ政権が真剣に考えるようになれば、最大のドナー国である日本（インドは日本の円借款の最大の受取国）を重視する姿勢は強まる可能性がある。

以上

りそな総合研究所 理事 石井正文